

でんでんむしの かなしみ

いっぴきの でんでんむしが ありました。

ある ひ その でんでんむしは たいへんな ことに きが つきました。

「わたしは いままで うっかりして いたけれど、わたしの せなかの からの なかには かなしみが いっぱい つまって いるではないか」

この かなしみは どう したら よいでしょう。

でんでんむしは おともだちの でんでんむしの ところに やって いきました。

「わたしは もう いくて いられません」

と その でんでんむしは おともだちに いいました。

「なんですか」

と おともだちの でんでんむしは ききました。

「わたしは なんと いう ふしあわせな ものでしょうか。わたしの せなかの からの なかには かなしみが いっぱい つまって いるのです」

と 最初の でんでんむしが はなしました。

すると おともだちの でんでんむしは いいました。

「あなたばかりでは ありません。わたしの せなかにも かなしみは いっぱいで す。」

それじゃ しかたないと おもって、最初の でんでんむしは、べつの おともだちの ところへ いきました。

すると その おともだちも いいました。

「あなたばかりじゃ ありません。わたしの せなかにも かなしみは いっぱいで す」

そこで、最初の でんでんむしは また べつの おともだちの ところへ いきました。

こうして、おともだちを じゅんじゅんに たずねて いきましたが、どの ともだちも おなじ ことを いうので ありました。

とうとう 最初の でんでんむしは きが つきました。

「かなしみは だれでも もって いるのだ。わたしばかりでは ないのだ。わたしは わたしの かなしみを こらえて いかなきや ならない」

そして、この でんでんむしは もう、なげくのを やめたので あります。

底本＊「新美南吉童話集 1 ごん狐」

著者＊新美南吉

出版社＊大日本図書

出版年＊1982年1月31日初版第1刷発行

入力に使用＊1999年3月25日第11刷発行

入力＊安城市中央図書館職員